

【生徒の実態】

「学び合い」による授業づくりは定着しており、生徒が意欲をもって学習し、生活するようになってきた。さらに主体的な学びによる学力向上と、お互いを大切にするコミュニケーション能力を育成するために、昨年度は、学力を効果的に向上させる「学び合い」と指導力について研究した。

しかし、学力定着調査の結果には、市・全国の平均正答率を越えていない教科・学年がある。教科ごとの継続的な学力定着の実践が必要である。

【研究テーマ】

学びに向かう力と学力の向上

～「学び合い」を通しての人間関係づくりと授業の推進～

【研究仮説】

生徒が自らの学びを主体的に創造し、お互いが一人も見捨てない人間関係を築き、教職員が指導力向上を図り、確かな学力を定着させれば、継続的に学力が向上していくことができるだろう。

【研究内容】

(学力定着)

(ことばの教育)

(学習集団)

- 授業のめあて・活動の目標・学習の流れを提示し、ゴールを明確にする。
- 授業の中に必然性のある学び合いの活動を取り入れ、全員で課題を達成する。
- 授業のふりかえりにおいて、学び合いの自己評価をする。
- 予習－授業－復習のサイクルを確立し、家庭学習と授業を連動させる。
- 1年生からセミナー学習を取り入れる。

- ことばの教育を推進するための実践(授業における取り組み)
- ・「書くこと」「説明」を学習活動に位置づけ、効果的に取り入れる。
- ⇒①根拠のある意見の記述
- ②相手を納得させる説明
- ③キーワード・専門用語を使用した授業のまとめ
- ④言い換えやリライト
- ⑤文種に応じたモデル例
- ・学び合いに適した思考課題・発問の工夫
- ・プリント指導と評価の工夫(自己評価シート)
- (学級における取り組み)
- ・デイリーライフ(今日の記録, 全校朝会での校長先生の話)の活用。 ※「聞く力」「書く力」
- ・読書活動の充実 ※「読む力」
- ・「天風録」の活用 ※「読む力」「書く力」
- ・1分間スピーチの充実 ※「話す力」「聞く力」
- 【適宜】
- ・帰りのH・Rで学習係が授業の報告・次時の連絡をする。 ※「話す力」「聞く力」

- 学び合いの授業づくり(「生徒指導の三機能」=「自己決定・自己存在感・共感的人間関係」を活かす)
- 「めざす学習集団」を意識させる。
- ・自分の意見を伝える。
- ・アドバイスを受け入れる。
- ・教え合い、助け合いができる。
- ・お互いを認め合い、大切にする。
- ・私語を注意し合える。
- ・授業規律を守る。
- QUの活用(自分を見つめる)
- 「四中授業五訓」を徹底・定着させる。
- 1.授業の開始時刻には座り、授業準備をして待つ。
- 2.授業の開始と終了の挨拶は、心を込めていねいに。
- 3.授業の「めあて」を確実に知り、全員で課題を達成することを目標に。
- 4.授業の中では、何をする場面なのかを意識して行う。
- 5.授業のふりかえりでは、自己評価シートに具体的な記述を行う。

- 確かな学力の育成
- ・標準学力調査・全国学力調査の結果より、各教科において課題を分析・把握する。

- セミナーを活用し、学力補充。
- 【月～金】
- 自主学习への支援・個別指導。

#### 【検証の指標】

- 全国学力・学習状況調査の結果・・・対全国平均との比較
- 学力定着調査の結果・・・市（全国）平均との比較，前年度平均との比較
- 授業アンケートの結果（7月と12月） ○QUの結果（6月と12月）

#### 【達成目標】

- 全国学力・学習状況調査（対全国比）107以上
- 学力定着調査の平均正答率を各学年とも同一集団の対市比（対全国比）を前年度以上にする。
- 生徒による授業アンケートの、「テストの点がよくなったと感じる」と「いまよりもっとわかるようになりたい」の項目で，肯定的評価90%以上（7月と12月）
- QUでの、「学習意欲」の項目で全国平均以上，「クラスの中にとほっとして明るい気分になる」の項目で，肯定的評価前年度以上